

1 地域イメージの形成

現状と課題

三芳町は、首都圏30km圏内に位置しながら、今なお武蔵野の面影を残す緑豊かな町です。町では、住民意識の高揚に資するため、町の象徴として、町の木を「けやき」、花を「きく」、鳥を「ひばり」と、それぞれ指定しています。

平成元年（1989）には、三芳生誕100年の記念として、町のアイドルキャラクター「みらいくん」をつくりました。

平成8年度（1996）には、来訪者にやさしいイメージづくりを進めるため、「サイン計画」を策定し、景観形成や地域イメージの向上に配慮した統一性のある案内板等を段階的に整備してきました。

みよしまつりなどのイベントや歴史文化とのふれあいなどを求めて、町には年間多くの来訪者があり、富の川越いものブランド化や関越自動車道三芳PA※スマートインターチェンジの開設などにより、今後も来訪者の増加が予想されます。

こうした観光的資源や地域財産等をネットワーク化し、魅力ある地域イメージを創ることが求められています。また、住民が自慢できるまち、誇りをもてるまちとするため、町外に対して地域をPRするとともに、三芳PAやその周辺の整備・活用など、「三芳町」のPRに努めることが必要です。

※PA＝パーキングエリア



町の木「けやき」



町の花「きく」



町の鳥「ひばり」



多福寺

今後の施策

①魅力ある地域イメージの形成

町に点在する歴史的な名所やみどりの景観などの地域財産をネットワーク化し、回廊型の散策コースを検討したり、情報の提供を行います。また、地域イメージの向上や統一化を図るため、「三芳町サイン計画」に基づいて、地域イメージ戦略の策定について検討するなど、魅力ある地域イメージの形成を推進します。

②町のシンボルの活用

町が制定している木、花、鳥、町のキャラクターなどの住民への普及と定着、そして企業等の参画による多面的な活用に努めます。

③三芳PAシンボル空間の創造

町の顔となり、住民や関越自動車道で訪れた人々のゆとりとうるおいを与えるものとして、三芳PAシンボル空間の創造を検討します。三芳PA敷地に隣接した空間に、三富地域の景観や自然歩道を効果的に再現し、地域のシンボル性を創出していくことに努めます。

④統一的なサインの整備とユニバーサルデザインによる表示の検討

来訪者をやさしく迎え、ぬくもりのある交流を進めるため、「三芳町サイン計画」に基づき、地域イメージの向上に配慮した統一性のある案内板等の整備を進めます。また、公共施設等の表示については、多言語化やピクトグラム※の採用など、外国人や障がい者等にも配慮したユニバーサルデザインを検討します。

※ピクトグラム＝絵文字による表示

⑤自治体間交流の推進

地域特産品や伝統文化等を通じた、国内の他地域との交流を推進し、国内友好都市の締結など、ネットワーク形成の可能性を検討します。

現状と課題

町では、国際化社会に対応したまちづくりを進めるため、中学生の海外派遣やオーストラリアからの児童生徒の受け入れなど交流事業を実施するとともに、オハイオ州ニューブレメン村と児童生徒の絵画交流を行うなど、教育や文化を中心とした国際親善を図ってきました。また、ワンナイト・ステイ※をはじめ、住民がホストファミリーとして協力をいただいて、海外の研修生を受け入れるなど、地域の理解も少しずつ進んでいます。

今後も、国際化が進展する中では、教育・文化・スポーツなどさまざまな分野で海外との交流を活発化し、住民の国際理解や協力を促していくことが求められます。さらに、国際友好都市の提携なども視野に入れた、海外都市との交流・親善活動が課題となっています。

※ワンナイト・ステイ＝国際交流基金日本語国際交流センターが行う研修事業で、海外で活躍する外国人日本語教師が日本の生活を宿泊体験するもの



今後の施策

①海外交流体制の整備促進

住民参加による海外交流の充実を図るため、関連機関との連携を図りながら、国際的な視野をもった人材の育成を図るとともに、ホームステイの受け入れや通訳等の住民の協力体制を整備・促進し、住民が幅広く活動に参加できるよう情報の提供に努めます。

②国際親善の推進

次代を担う感受性豊かな青少年の海外派遣事業の充実を図るとともに、海外の研修生等の受け入れを促進します。また、友好都市提携を視野に入れながら、住民参加のもとに、海外都市との文化交流事業を推進します。

